

## 暮らしの安心感や つながりを育む米作り

鮮やかな山々の緑と田園風景が広がる葛城校区福祉委員会。

この地域では、豊かな自然の恵みを活かして、地域と家庭、学校がつながるさまざまな機会を設けています。



泥の感触を楽しみながら、コツを教わって一緒に田植え。



学校では、子どもたちひとりひとりの感謝の気持ちを地域の方々に届けることを大切にしています。

今年27人の児童と、地元の長生会や地区福祉委員会のボラ

毎年6月下旬頃に、学校で育てた苗を泥田に入って植え、10月下旬には立派に実った稲を鎌で刈りとりまします。

葛城小学校の5年生を対象にした米作り体験がはじまったのは今から約15〜16年前。「食育や環境教育の一環として、年間を通じて米作りを体験できたら」との学校の想いと、「子どもたちの学びの場、そして地域住民との交流の場として休耕田を提供したい」という住民の想いがつながり実現しました。

## 貝塚市：葛城校区福祉委員会

# 自然を活かした 地域ぐるみの福祉教育

ボランティア部員など28人の住民が参加し、マンツーマンによる正しい指導のもと、田植えを体験しました。「この行事は、子どもたちだけでなく、地域に住むみんなにとっても生活の一部になっているんです」と、ボランティア部会長の山下さん。

さらに、収穫後の1月には、学校で「もちつき大会」が開催され、全校生徒と住民総勢300

人が集い、臼と杵で餅つきをしたり、つくたてのお餅やボランティア部員手作りの豚汁を食べながら、世代間の交流を深めています。

## 学校との連携

また、福祉委員会には会議や研修会でいつでも自由に使える部屋(活動拠点)が学校から提供



左からボランティア部会の山下さん、上田さん、川崎さんと奥田教頭先生。

最後に、教頭の奥田先生は「子どもたちには、地域のみんながあたたかく見守り、育ててくれていることを感じ、感謝の気持ちを大事にしてほしい。これからも、生まれ育った葛城の良さを伝えながら、地域とのつながりを深めていきたい」と、想いを語りました。

『地域の人はみんな知っている人』。地域と家庭、学校をつなぐ、自然を活かした多様な福祉教育の関わりが、みんなの暮らしに大きな安心感をもたらしています。

## 貝塚市民児協

### 災害時に支え合う 体制づくりにむけて



### 電話連絡網による防災訓練の実施

熊本地震など相次ぐ自然災害の発生を受け、5月15日に「民生委員・児童委員の日 活動強化週間」の取り組みの一環として、初めて連絡網による防災訓練を実施しました。

午前10時に訓練を開始。地区委員会を通じて、全委員136人に連絡をするのに1時間35分を要しました。災害時の混乱した状況や深夜に土砂災害等が発生した場合には、さらに時間がかかることが想定されます。

貝塚市民児協の井上菊信会長は「貝塚市は、縦に長く、山間部と海の周辺の地域が分かれており、一部の地域だけが被災する可能性が高い。今後は、電話連絡網を活用して、委員の安否をいち早く把握し、要援護者支援を含め、被災した地域を市内の委員同士で支え合える体制づくりを検討していきたい」と語りました。



当日は、福祉センターに本部を設置し、役員が集まる。

## 高齢者のイキイキとした活動を支え続ける

～大阪ガスグループ福祉財団の取り組み～

昭和60年に設立された大阪ガスグループ福祉財団(以下 福祉財団)では約30年間にわたり「高齢者福祉助成」および「高齢者の福祉および健康づくりに関する調査・研究助成(以下 調査・研究助成)」に取り組んでいます。今回はその取り組みから大切なポイントをお伺いしました。

### 高齢者の活力あふれる地域へ

『地域との良好な関係なくして経営は成り立たない』。大阪ガスグループではこの考えのもと、バザーの開催や、ぞうきんを児童施設に寄贈するなど、これまでさまざまな地域貢献活動をしています。「大阪ガスグループの活動基盤は地域一人ひとりのお客様ですので、地域社会の活性化に向けての取り組みには長年注力しています」と福祉財団・代表理事の森さんは話します。

大阪ガスグループとして、さまざまな地域貢献活動をしてい

る中でも、福祉財団は高齢者を対象とした地域福祉活動をサポートする事業に力を入れています。その背景には、福祉財団が設立された頃、急速な高齢化が社会問題となっていたことが大きな要因です。

そこで、高齢者のための地域福祉活動や社会参加支援への助成として「高齢者福祉助成」を、高齢者の福祉向上や健康の維持・増進を目的に、福祉施設や病院、大学その他の研究機関で進められている調査や研究への助成として「調査・研究助成」を実施しています。

### 団体に寄り添った助成!

担当の堀口さんは「助成選考は書面のチェックだけではありません。応募団体を一件一件訪問し、活動への想いや助成の必要性を現場を見て確認するようにしています」と応募団体とのコミュニケーションを大切にしています。

助成先の団体では、サロン活動を活性化させるための機材購入や、認知症カフェの運営備品等さまざまなことに活用しています。過去、助成を受けた団体

からは「サロン活動が充実し、参加者が増えました!」「高齢者の閉じこもり予防や介護者の負担軽減につながりました」などの声が寄せられています。

森さんは「これまで地道に活動している団体が、新しい活動の資金であったり、既存の活動の充実のために活用いただけるのと大変うれしいですね」とこやかに話します。また、堀口さんも「長くこの助成が続けられるように、福祉財団としてもがんばります」と力強く続けました。

福祉財団の取り組みは地域で活躍しているボランティアの大きな力になっており、高齢者のイキイキとした地域福祉活動を支えています。



左)堀口さん、右)森さん

### <お知らせ>

現在、平成28年度高齢者福祉助成および調査・研究助成の募集を行っています。詳細は福祉財団HP (<http://www.osakagas.co.jp/company/efforts/fukushi/>)をご確認ください。

## 「災害でも減らまがらいつつ」やまわつて

「災害ボランティア交流会」を開催 in 大阪社会福祉指導センター

6月20日、府社協は、府内の災害・防災をテーマに活躍しているグループや個人を対象に、お互いの活動について交流を深め、平時の地域活動を展開するヒントやそのあり方を一緒に考える機会として、初めて「災害ボランティア交流会」を開催しました。

当日は、市町村社協に登録しているボランティアやグループ、NPO、社協職員など、40人が参加しました。

また、日本赤十字社大阪府支部より、「防災教育事業と防災ボランティア活動」と題して話題提供いただき、防災知識・技術の普及や、防災意識の啓発に向けた人材育成の取り組みを学びました。

参加者からは、「若い世代に対するアプローチが印象に残った」や「身近なものを使った啓発活動が面白かった」「防災教育の大切さを理解した」などの声がありました。

グループワークでは、お互いの活動実践の紹介や、抱えている活動上の悩みを共有し、「良い刺激になった」との感想が得られ、定期開催を望む声も聞かれました。

実践事例として、「富田林災害ボランティア『スクラム』」、「柏原市災害ボランティアコーディネーター会」、「NPO ZOO CAN DREAM PROJECT」(田尻町)を中心に活動)の3団体から報告があり、イベントにおける減災方法のPR活動や、子どもを中心として大人を巻き込む取り組みなど、地域における生きいきとした減災・防災活動の紹介がありました。



グループには社協職員も加わり、「平時からの減災・防災活動」について活発に意見・情報を交換

頻発する豪雨災害や土砂災害、来るべき南海トラフ巨大地震等の大災害に備え、今後も府社協は、平時からの減災・防災活動のすそ野拡大を目指して取り組みを進めていきます。